



中村小だより



練馬区立中村小学校
(3990)4241
平成30年度 5月号

活動から学習へ

校長 井上 靖

＜中村小学校 学校教育目標＞

- よく考える子ども
- さいごまでやり抜く子ども
- 明るく元気な子ども
- ◎なかよく助け合う子ども

「活動」と「学習」は同じだと思いますか。

教育界には様々な用語がありますが、似通った言葉があります。たとえば、「指導」と「支援」とか「計画」と「企画」とか「朝会」と「集会」とか結構たくさんあります。「活動」と「学習」もその一つです。「体育学習」と「体育的活動」は字面が似ていても内容は全く違います。「活動」は元気よく積極的に動くこと、働くこと。「学習」は基礎的な知識を学ぶこと、活用すること、と辞書には載っています。

保護者会の折、少しだけ話をさせていただきましたが、2020年・平成32年度には学習指導要領（文部科学省が教育目標や内容の基準を示したものが改訂され全面実施されます。キーポイントの一つは、外国語活動が高学年で教科化されることです。

これまで、5・6年生が外国語活動として週1時間、年間35時間（公立小学校は年間35週間が基準となっている）が標準時数とされていました。新学習指導要領では、5・6年生の外国語活動が教科化され、外国語という教科になり、週2時間、年間70時間の学習をすることとなります。

また、これまで実施しなくてもよかった3・4年生は外国語活動として週1時間、年間35時間授業をすることになります。しかし、本年度と来年度は全面実施前ですので、移行期間として外国語活動を高学年は年間50時間、中学年は15時間実施することになります。

本校は全面実施に先立ち、高学年は外国語の学習として70時間、中学年は外国語活動として35時

間、実施しなくてもよい低学年も外国語活動として年間8時間実施します。生活時程が変わったり、クラブ活動や委員会活動の曜日が変更になったりした理由がここにあります。

教科となる高学年の外国語は学習ですから、評定（よくできる・できる・もうすこし）を示す必要がありますが、小学校は中学校と指導目標と内容が違うので、本校のあゆみ「外国語活動の記録」と同様に記述式で評定に換えます。これは全国一律です。

公立小学校は「校内研究」という名称で、重点的に研究する教科・領域を決めて定期的に研究授業を行い、検証しています。本校は「外国語・外国語活動」を研究領域にして4年目を迎えます。

これから国際社会で活躍する本校の子供たちが、中学校の英語教育にスムーズに移行できるように、そして、これまで小学校の学習指導要領には教科として位置づけられていなかったため、外国語の指導経験が十分とはいえない本校の教員が、単独で自信をもって指導できるようにという展望の中で研究を進めています。要は、外国語を通して他者を理解しようとしたり、他者に自分の思いを伝える難しさを実感したりして、自分の思いを伝えようとする態度を培うことです。平たく言いますと外国語を通してコミュニケーション（互いに伝え合おうというキャッチボール）を楽しむということです。

本校は本年度、来年度の2年間、練馬区教育委員会教育課題研究指定校となり、31年度に研究発表をすることになりました。外国語・外国語活動の授業だけでなく、図書委員会による「英語の本コーナー」の設置や放送委員会による「英語でアナウンスデー」の試行など児童主体の活動も工夫していきます。公開授業などで授業の様子をご覧いただき、ご感想をお寄せください。どうぞ楽しみにしててください。

